

# 青年海外協力隊現地巡回指導報告書

JICA LIBRARY



1209178 [1]

技術顧問 (家政分野) 河村 フジ子

訪問国 ボリヴィア、コスタ・リカ

期間 平成4年7月25日 ~ 8月10日

青 国 二

J R

92 - 04



1209178 [1]

まえがき

本報告書は、青年海外協力隊員の現地協力活動に対する技術面の指導、助言、ならびに現地技術水準の実態調査を行うため、各専門の委員を派遣し調査を行い作成したものです。

その調査報告書を部門別に冊子にしたものですが、隊員の活動状況や問題点及び提案などが整理されており、各派遣国の実情を把握する上でも大変貴重な資料であると考えます。

ついでには、隊員候補生を始め多くの関係者に有効に活用されることを期待します。

平成4年11月

青年海外協力隊事務局長

青 木 盛 久

08787

目的 家政、栄養士、保母、手工芸、皮革工芸隊員の現地協力活動に対する技術指導、助言、ならびに現地技術水準の実態調査

日程

7月25日	17:20	成田空港発
7月26日	5:53	シアトル、マイアミ経由でエル・アルト空港（ボリヴィア）着。小林調整員の出迎えを受ける。
	7:30	ラパスホテルにて日程等の打ち合わせ
7月27日	9:30	JICA事務所訪問
	10:30	二本柳美保（保母）隊員と懇談
	15:00	日本大使館表敬訪問
	16:00	柳川久美子（家政）隊員と懇談
	19:00	隊員との懇談会
7月28日	9:30	ソリア保育園訪問
	12:00	隊員との懇談会
	15:00	ラパス市内市場調査（手工芸品）
	19:00	JICA事務所主催夕食懇談会
7月29日	9:30	ラパス発 コチャバンバ空港に10:05着
	11:00	老人活動センター訪問
	15:00	国家社会開発連帯委員会コチャバンバ支所訪問
	16:00	女性技能訓練センター訪問
	16:40	カナタ保育園訪問
	17:30	マリアクリスチーナ少女孤児院訪問
	19:00	隊員との懇談会
7月30日	9:00	コチャバンバ発 スークレ経由でタリハ空港に10:45着
	15:00	国家社会開発連帯委員会タリハ支所訪問
	16:10	パンパ地区婦人クラブ訪問
	19:00	隊員との懇談会
7月31日	9:00	ビジャ・アバロア保育園訪問
	10:30	ルイス・ピサロ保育園訪問
	14:30	女性技能訓練センター“ホアン・パブロ二世”訪問
8月 1日		資料整理
	19:00	隊員との懇談会
8月 2日	7:15	ラパス発 マイアミ経由でサンホセ空港（コスタリカ）に9:45着
8月 3日	11:30	ホテルホリデインにて日程の打ち合わせ

- 8月 3日 14:30 地域職業教育学校 (BARVA) 訪問
- 8月 4日 9:00 国立職業訓練庁訪問  
10:20 国立職業訓練庁アテイジョ分校訪問  
11:00 職業訓練関係者会議  
14:30 地域職業教育学校 (CARIARI) 訪問
- 8月 5日 8:00 アグアブエナへ移動  
16:00 地域職業教育学校 (AGUABUENA) 訪問  
19:00 家政・職業訓練関係者会議
- 8月 6日 8:00 ホテル発 ブエノスアイレスへ移動  
12:00 サリトレ村における家政隊員の活動現場視察  
14:00 ウハラス村における農村開発普及員の活動現場視察後サンホセへ移動
- 8月 7日 11:00 サンホセ市内市場調査 (皮革工芸品)  
15:00 資料整理  
19:00 コスタ・リカ協力隊員活動会議
- 8月 8日 10:10 サンホセ空港発 ロスアンゼルス空港に16:58着
- 8月 9日 13:35 ロスアンゼルス空港発
- 8月10日 16:10 成田空港着



## ボリビア

面積は日本の約3倍、人口700万人で、原住民族(ケチュア族、アイマラ族)が過半数を占める。国土の約20%以上が海拔4000m以上にあり、乾期(4~10月)と雨期(11~3月)があり、高度差により、寒冷、亜熱帯、熱帯雨林気候を示す。住民の平均寿命は35才、未就学児23%、15才以上の文盲率約50%、女子の就業率は極めて低く、その地位も低い。このような任国における家政・栄養士・保母隊員の活動状況と今後の活動に対する私見を述べる。

### 1. 訪問した隊員受入機関

#### 1) ソリア保育園(ラパス)

谷底のような位置にある。園児約60名。ここで二本柳隊員(保母)が余暇活動としてはじめた人形劇を園児と共に見るのができた。材料費を手作り菓子の販売で捻出し、人形製作、演出、演技を一人でこなして、当園では勿論、他所でも公演しているという。子供達の明るい笑顔と歓声と拍手が印象的であった。

給食は、カボチャのスープ、煮込み肉(トマト入り)、里芋(乾)のピーナツあえ、リンゴのコンポートでバランスのよい献立であった。

#### 2) 老人活動センター(コチャバンバ)

民家の軒先を利用した老人達の集会所。平塚隊員(保母)及び犬塚隊員(家政)の指導による人形製作、編物の実習中であった。製品の収益は園児達の誕生会の費用に当てる他に老人達のピクニック等も計画されている。当日は、小麦粉、砂糖の無償配布もあり、多数の老人がここに参集していた。

#### 3) 国家社会開発連帯委員会(JNSDS)コチャバンバ支所

支所長及び経理担当部長と約1時間面談。

現地隊員(保母、家政、栄養士の3名)は、青少年育成部門、婦人部門、老人部門でよく活動しており、今後も是非継続して活動してほしいこと、及び、チャパレに給食センターを開く予定があるので、新隊員(食品加工?)を派遣して欲しいこと、医療隊員(保健婦、看護婦等)の派遣の要望があった。

#### 4) 女性技能訓練センター(コチャバンバ)

婦人達に洋裁、刺しゅう等の技能取得をめざした施設。ここに日本の援助によるミシン12台が設置される予定で話が進められている。これが実現した場合、婦人子供服の隊員(技術レベルの高い経験者)の派遣が必要であろう。

#### 5) カナタ保育園(コチャバンバ)

市内にある14の公立託児所に比べると整備されているとはいえ、ベット数不足で遊具もなく、部屋にはオモチャ、絵本等の遊び道具もない。しかし、清掃はよくなされていた。ここで子供達は、歌と遊戯で歓待してくれた。

保育園は、食事を与え、昼寝をさせるいわゆる“子守り”の場であるという現状を見るのができた。平塚隊員(保母)の今後の活動に大いに期待したい。

#### 6) マリア・クリ스티ナ少女孤児院(コチャバンバ)

門に施錠があるが内部は明るく、清掃はゆき届いていた。ここで犬塚隊員(家政)は年長者に人形作り、編物を教えて現金収入につながる技術の指導を行っている。一方、大野隊員(栄養士)は、給食担当で献立、材料発注等の指導を担当している。一週間分の献立表及び栄養パンフレットについて説明を受ける。

#### 7) 国家社会開発委員会(JNSDS)タリハ支所

はじめに、支所長から支所の組織(地域開発局と青少年育成課がある)について説明を受ける。隊員の活動状況については“非常に満足している”との評価を得た。保母、家政の両隊員ともに、従来、社会開発委員会で欠けていた部分(母親教育、青少年活動、女性の向上)を担当している。

隊員に対する要望として、スペイン語の上達と活動の定着(隊員が帰国してもタリハの人々が代わって人々に伝える)である。後任を是非お願いしたいが、それは、必ずしも現隊員の仕事をそのまま引き継ぐのではなく、独自の考えで各自が何かを残してほしい。今後は活動を拡大させたいので、そのための隊員の派遣を要請したいとのことであった。隊員に対する理解と指導及び隊員配属についての要望を伝えて約40分の面談を終えた。

#### 8) パンパ婦人クラブ(タリハ)

民家の一室で毎週木曜日に技術取得のために集まるグループでメンバーは25名位。三橋隊員(家政)の活動現場である。編物、人形作り、鍋つかみ等の小物作りの指導が行われていた。婦人達は明るく、意欲的で同隊員との人間関係は極めてよいとの印象を受けた。

#### 9) ビシャ・アバロア保育園(タリハ)

園児40名、学童保育(給食のみ)23名、現地保母2名、調理員1名。

国会議員ゆかりの篤志家によって経営されているが、教材等は山本隊員(保母)の努力によりJNSDSより現物支給(エンピツ、絵本、紙)され、また、遊具(なわとび用なわ)もJICAより支給されて、毎月のカリキュラムが提示され、理想的な保育活動が展開されていた。当日は、子供達の挨拶で迎えられ、同隊員による紙芝居、遊戯、なわとびを見学した。教室にはお絵かき、折り紙、切り紙等の子供の作品と保母の作品(折り紙)が並べられており、従来の保育(食べさせて、寝かせる。そしてムチで子供をおとなしくする)から、子供の健全な成長をめざす保育へと大きく変化しつつあることを確認し、着任六カ月でここまで成し遂げた努力に敬意を表し、給食のおやつ(ゼリー)を試食して当園を後にした。

#### 10) ルイス・ピサロ保育園(タリハ)

園児54名、学童保育(給食のみ)26名、現地保母4名、調理員1名、パン加工2名。(各業務は2~3か月のローテーションを組んで分担) 給食材料はJNSDSからの現物支給とパン工場の売り上げ金でまかなっている。職員の給料は、JNSDSからの小麦粉、砂糖で支給(極めて低賃金)されている。

ここは、山本隊員(保母)の活動現場であり、園児達の遊びと小麦粉粘土細工を見学した。動物や食物等を夢中で作っていた園児の真剣な表情が印象的であった。



#### 11) 女性技能訓練センター “ホアン・パブロ2世”(タリハ)

独立した家屋で、毎週金曜日15:00から手編み、洋裁、ピントウラ(布にアクリル絵の具で絵を描く)のクラスが開かれ、60名の主婦達が集まる。洋裁とピントウラの指導はJNSDSの職員である指導員が当たっているが、手編みは、三橋隊員(家政)が担当し、セーターのデザイン、編み方、編み目記号の読み方等の基本を指導している。今後、JNSDSが毛糸を提供してセーターを編み、販売・収入へとつなげるプロジェクトが開始される予定である。

### 2. 家政隊員の活動状況

平成3年1次隊で1名、2次隊で2名が家政の先駆者として活動を開始した。現在、JNSDSの各支所に置かれている地域開発局または青少年育成局に配属され、孤児院、少年少女院、地域女性グループで、手芸、人形作り、編物等の技術指導を行い、材料から販売までの製品管理業務の指導に当たっている。家政の究極の目標は“生命を守り、より豊かな生活をめざす”こと及び“女性の地位の向上”であれば、単に現金収入につながる技術の指導と販売に終わることなく、得た収入を生活に生かすことを念頭において、栄養・衛生教育を並行して行うよう助言した。具体的には、母親クラブでの現金収入につながる編物・人形・小物製作を指導する際に、栄養のバランスのよい1食分の料理講習(現地の食生活はバランスが悪く、しかも変化が乏しい)や日本料理の紹介を行うことを提言した。早速、活動計画に取り入れたいとのことであった。隊員自身が家政の役割を十分理解していない向きもあり、早急にマニュアルを作成し、他の関連職種との協力体制を強化する必要性を痛感した。

### 3. 栄養士の活動状況

栄養士隊員は2名で、1名は厚生省に配属され、病院栄養士であるが、今回の巡回地の栄養士は、JNSDSの支部における青少年育成局に配属されて孤児院の献立・発注業務の指導を行っている。しかし、当院では、それを長年担当してきた栄養士(無資格者、正規の栄養士は病院に配属)がいるので、この業務については、助言を与える程度に止めて、現地では行っていない栄養調査(現地大学においてその要請がある)と栄養教育(直接住民に対して、理論・実習を組み合わせた実践活動)を主に活動するよう助言した。現地栄養士の業務内容には、問題が多々あり、技術移転の可能性も少ないので、隊員の活動の場(方向性)を変更せざるを得ない現状にある。上司とも連絡をとり、早急に一般住民を対象とした栄養教育の実績を上げて欲しいと念じている。

### 4. 保母隊員の活動状況

#### 1) 乳幼児の保育

ボリヴィアの保母は、15才位からいわゆる“子守り”として単に子供を預かるだけで、保育に関する専門的知識及び技術をもたない無資格保母であり、低賃金で地位も極めて低い。

そこで、保育の質の向上をめざして、新規に派遣された保母隊員達のめざましい活動が展開され、着実にその成果を上げつつある。

具体的には、乳幼児の心身の発達を促すための健康・生活習慣(手洗い、歯みがき、排泄、整理整頓)等の教育面を強化したカリキュラムを作成し、お絵かき、折り紙、紙芝居、人形劇、自然探索、遊戯等を

とり入れて、現地の保母達とともに保育に当たっている。その結果、現地の保母達の仕事への意欲がみられるようになった。国営施設であり、組織化された体制の中で、保母隊員達の的確な言動力は、ボリヴィアの子供達への真の福祉に直接つながる活動であると考えられる。

予算が乏しく、廃品利用の教材・教具が印象的であった。また、食器数、ベット数不足等、JNSDSに対して要求すべきことも多々あると考えられる。

## 2) 現地保母の研修

無資格保母に対して、保育セミナーを開催している。具体的には毎週1回(土曜の午後)位のペースで、折り紙や製作、絵本の読み方等の保育技術指導を行っている。また、誕生日会や母の日、父母会等の行事(従来は行われていない)を現地保母とともに計画し実践して、望ましい保育活動の定着を図りつつある。各隊員とも、現地保母達との信頼関係ができて、従来の保育形態が大幅に改められ、子供達の表情に明るさが見られるようになった。

## 3) その他

老人クラブで人形作り等の技術を指導して、売上金を子供達の誕生日会の費用に当てたり、母親に対する栄養・衛生・保育指導等の計画がある。生活は極めて貧困で、文盲率も高い婦人達にこれらの生活指導を行うことは容易ではないが、隊員達の現地にマッチした独創力と実践力によって、徐々に活動が見えはじめてきたように思う。

## 5. 家政分野活動の展望 - 総括

今回、巡回の対象となったのは、家政・栄養士・保母の3職種であるが、これは広義の家政分野であり、人命と生活を対象とする人間の幸せに直接関わる分野の活動である。ボリヴィアの人々は、貧困で成人の半数は文盲であり、栄養・衛生・保育に関する知識・技術に欠け、多くの子供は成人することなく生命を失い、女性の地位は極めて低く、いたるところに活動の場がある。隊員は、大統領府国家社会連帯委員会(JNSDS、総裁は大統領の実妹)に配属され、各支所にある社会開発促進局または青少年育成局で活躍中である。来年行われる大統領選へ向けて、活動現場における人事は極めて流動的であり、活動の妨げとなっている。

以上のような背景の中で、JOCVとして、ボリヴィアと日本の親交を深めるために、そして、ボリヴィアの人々の人間としての幸せへの支援のために今後なすべきこと(単なる感想も含む)を次に述べたい。

### ① 家政分野の職種として、婦人・子供服、手工芸隊員を派遣する。

日本大使館を通して150万円程度のミシンの支援が実現する可能性がある。その管理・運用の指導に婦人・子供服の専門性の高い人材が必要となる。

また、技能(術)訓練所の指導員として、手工芸隊員の配属も必要であろう。

### ② 家政分野の総括担当として、実践力を有する家政隊員を派遣し、現金収入の活用を通して“人間としての幸せ”への手助けをし、女性の地位向上(開発と女性=WIDを踏まえた活動)を図る活

動を定着させる。(家政隊員は、生活改善に重点をおく)

- ③ 活動の場を限定して、5~6年(現在初代隊員であるから3代位)で、活動が現地人に定着するよう、実力・意欲、そしてある程度の経験者を派遣する。

現在1人が4~5か所を巡回し、かなりハードスケジュールであり、また、そのために活動が定着しにくい。直接、住民の生活に届く活動に限定して、隊員の努力が、見えるように配慮したい。

- ④ 家政分野(家政、栄養士、保母、婦人子供服、手工芸)相互の協力体制を確立し、チームワークによる活動の実をあげて、定着を図る。

そのためには、隊員間の理解と協調がポイントとなる。

- ⑤ 関連職種(青少年活動、養護、野菜、食品加工、農産物加工、乳製品加工等)との協調も大切である。

- ⑥ 活動の支援体制として、JICA及びJOCV事務局の役割は大きい。

特に、今回の巡回を通して、隊員に対する小林調整員のきめ細かな対応が効を奏し、着任して日の浅い家政分野隊員の活動の強い支えとなっていることを痛感した。

終わりに、今回の巡回に際して、ご支援、ご協力を賜りました日本大使館ポリヴィアJICA事務所の皆様に心より感謝致します。

## コスタリカ

面積は50900平方km、人口260万人、国の中心である中央盆地は、1200mの高度にあるため、平均20℃で過ごしやすい気候である。住民は白人と白人系の混血が97%であるから知的レベルが高く、途上国という意識がない。高学歴、有資格者は都市に集中し、地方の職業訓練所には行きたがらない。インディオはわずか2%で、スペイン人によって追われたところが、現在のインディオ居住地である。平均寿命70才位、女性の就業率が高く、社会的には男女平等である。しかし、家庭における女性の地位は低く、未婚の母親、従って私生児が多い。このような任国における家政、手工芸、人形製作、皮革工芸の隊員の活動状況と今後の活動に対する私見を述べる。

### 1. 訪問した隊員受入機関

#### 1) 地域職業教育学校 (BARVA)

教育省所属。建物も整備されており、設計建設科、会計科、秘書科、コンピューター科、手工芸科があり、200名位の生徒がいる。昼間と夜間のコースがあり、その他に自由に学びたい人のためのコースもあって、一見してカルチャーセンターという雰囲気である。ここで青柳隊員(人形製作)は、手工芸科の現地教師とともに、人形製作の指導を行っている。当日は、あどけない女兒人形を製作中であったが、生徒達は明るくて素直で、好感がもてる。同隊員もいきいきと意欲的で、現地の教師との人間関係も良好であるように見受けた。

他の教室における料理実習(パエリアとチキントマトソース煮)を見学することもでき、有意義な訪問となった。

#### 2) 国立職業訓練庁

建物、設備ともに整備された大規模な職業訓練校で木工、電気機械、コンピューター、観光ビジネス、縫製他多岐に至った職業訓練を行っている。

ここで大津隊員(皮革工芸)は、インストラクター4名に皮革工芸の基礎から応用までの指導を行っている。当日は、電気ペンによる作品とバックの縫製を見学した。

#### 3) 国立職業訓練庁アティジョ校

手工芸教室を見学した。人形、木の実、ドライフラワーを用いた額、コーヒーの木に絵を描いた壁掛け、布に絵を描いて作った枕カバー、シーツ類等が婦人達によって作られている。ここでは、材料の仕入れ、製作、販売まで自主管理されている。企業が出資して運営されており、受講料は無料で誰でも参加することができる。このインストラクターは、大津隊員のところで皮革工芸を勉強中である。

#### 4) 地域職業教育学校 (CARIARI)

生徒数1000名余り(内女子約800名)、年齢15~60才。教師は14名で、中等教育もしくは大学卒である。建物は木造と鉄筋の平屋建で子供用遊具もある広い敷地の中にある。ここで、約20名の生徒に、池水隊員(手工芸)がマクラメを指導している。室内装飾品の大作が見本として教室に展示されていた。熱心に、マクラメを編む生徒達に適切な指導をしている同隊員の活躍ぶりに心より声援を送り、色とりどりの花が咲き乱れているこの学校を後にした。

## 5)地域職業教育学校(AGUA BUENA)

サンホセより車で8時間のところにあるアグアブエナは、緑豊かな小さい町で、その町はずれにこの職業訓練校がある。6か月単位で、英語・音楽・タイピング・簿記・手工芸のコースがあり、繁田隊員(手工芸)は、生徒の希望で町の中心に近い小学校の教室で婦人達に人形・組みひもを教えている。教室には、生徒の作品が並べられ、製作に励む人々と同隊員との人間関係は良好であり、同隊員の技術とアイデアは高く評価されていると感じた。

## 6)サリトレ村婦人グループ

ブエノスアイレスより5kmの山道を入ったところにあるインディオの居住地で茅根隊員(家政)は、自宅を集会所として、この地にはじめて婦人グループを結成して現金収入につながる製品作りと食生活の改善を進めている。集会所には、婦人達の手による髪飾りが並べられ、教材としての絵ハガキ、エプロン用布があった。近くのインディオの住居を訪問し、台所を見て日常食の献立について質問し、小学校の給食所を見学した。

## 2. 家政隊員の活動状況

コスタ・リカの南部に位置するインディアン居住区に、初代の家政隊員が原住民関係国立委員会に配属されて活動している。インディオはスペイン人に追われてこの地にのみ居住し、インディオとしての誇りや文化を失いつつある。また、部族間、各戸間のつながりも薄く、閉鎖的であり、女性の自覚、社会参加を好まず男尊女卑の社会である。この地において、住民と同様に電気、水道のない住居に起居して、まず、婦人グループを結成し、現金収入につながる民芸品の製作から販売(サンホセ市場に確保)までの製品管理と家庭菜園の普及から栄養料理の指導に至る食生活の改善に努めている。民芸品として髪飾り、刺しゅう入りエプロン、インディオの文様を図案化した絵ハガキなど、栄養料理としては大豆や肉を利用したバラエティに富むもので、インディオの文化・習慣を大切にしたユニークな発想で婦人達に好評である。

現在、同隊員の居住地にいる23名の女性のうち20名が、この婦人グループに属し、早朝より熱心に活動している。現金収入につながる製品の商品化、その現金を生活改善に活用する。そして、家庭・社会における女性の地位の向上をめざした開発と女性(W I D)にふさわしい=家政にふさわしい活動であり、同隊員の人柄、意欲が住民に受け入れられて着実に成果を上げつつある。

## 3. 手工芸隊員の活動状況

教育省所属の職業訓練所(全国で8か所ある)に2名の隊員が活動中である。1クラス20名前後の婦女子に現金収入につながる手工芸を指導する。現在、隊員が担当している種目は現地教師ができないものとしてマクラメ(キャリア校)と現地の材料を用いた新しい手芸として組みひも(ベルト)と人形作り(アグアブエナ校)である。教材用の見本や型紙作りに十分時間をかけて授業に望み、適切な個人指導を強化して、高い評価と信頼を得つつある。展覧会やクリスマスのための人形、マスコット作りをすることもある。新しいもの、かわいいもの、売れるものを考えて製品化することが隊員への期待であろう。

両隊員ともに、現地教師や生徒の期待に応えた活動を展開しつつあり、その定着をめざして今後も一層励んでほしいと念ずる。

#### 4. 人形製作隊員の活動状況

職業教育学校では、昼間(1:00~3:20, 3:40~6:00)は、13~14才の生徒のクラス(1クラス平均15名)を4クラス担当している。人形は、各自が持参した材料で、作りたいものを作るよう生徒とともに考えながら指導している。夜間(6:00~9:30)は2クラスで、現金収入にすぐつながる人形作りを第一とし、売れるものを考え、市場調査、見本作り、個別指導を行って技術の定着を図っている。

その他に、サンホセからバスで5時間のサンタクルスに週2回クルソーに出かけて地元の主婦や障害者の人達に人形作りを指導している。ここで、都市では見られない人々の暖かさ、人なつこさに接して、今後もこうしたクルソーに力を入れたい希望をもっているが、学校側では歓迎しない(住宅費を学校側が負担しているので)という実情がある。

ともあれ、同隊員の人形製作への意欲、技術(フランス人形も手がける予定)、人柄、現地においてJOCVの派遣目的に応える活動をするものと期待する。

#### 5. 皮革工芸隊員の活動状況

現地教師を対象とする指導で、基礎から応用までの理論と実習を並行させた高度の技術指導である。現在、染料と縫製について研究を進めている。

現在までに完成した製品はハンドバック、ポシェット、財布、ベルト、モザイク(額)、ブローチ等で、コスタ・リカの刻印をつけた民芸品もある。現在担当している現地教師は、国立職業訓練庁の職員で、技術習得後は(来年あたり)各地で生徒の指導に当たるわけであるから、隊員の技術は広く現地に定着することになり、やり甲斐のある仕事といえる。来年から、一般のクルソーにも当たりたいと希望している。そのためのテキスト、資料作り、道具の選択購入等意欲的な活動を行っている。

#### 6. 家政分野活動の展望 - 総括

コスタ・リカは、緑多く、気候温暖で、住民は知的レベルが高く、プライドをもっている。国内を巡回して、果たしてJOCVとして協力すべきことは何であろうかと考えてしまう程である。(わずか2%のインディオ居住区を除いて)ここでは、途上国における協力と言うより、親交を深めるための活動が主流となると思われる。

そのために、今後JOCVとしてなすべきこと、隊員の条件等について都市及びその周辺(白人、白人混血住民居住区、親交を深めるための活動)と原住民居住区(協力が必要と思われる活動)に分けて、今後の隊員派遣を中心に私見を述べて総括としたい。

① 都市及びその周辺における職業訓練所に派遣する手工芸・人形製作・皮革工芸の隊員は、ある程度の学歴と技術を有する者であることが望ましい。現地教師またはカウンターパートは高学歴者で、かなり高度で幅広い技術を有している。JOCVに求められる技術は現地にはないもの、ユニークなもの、民芸品的なもので、かつ、商品価値の高いものである。従って、柔軟性に富み、現地に来て現地で求められる技術に対応できる人ということになる。

② 上記のニーズに応えるために補完研修を強化すべきであろう。実際に皮革工芸隊員の場合、3か月の補完研修を受けたことで、ハイレベルの技術指導が行われており、本人も自信をもって活動することができると言っている。

③ 原住民居住区における活動は、現在村落開発普及員と家政の協力体制で進められているが、ここにも手工芸、野菜等の隊員を派遣して、より複数による活動にする方が望ましい。(移動は、徒歩または馬によるので1人の活動範囲はごく限られる)

④ 上記の活動は、コスタ・リカ政府とインディオとの“かけ橋”となり、インディオと白人との共存をめざすものであり、2～3代の隊員に引き継ぐことで、その任務は全うされるのではないかと考える。

広い視野(政治、経済、歴史、文化等)に立って、判断し、かつ、指導できる技術を有し、インディオの人々の中に溶け込める人が望ましい。

終わりに、今回の巡回に際して、ご支援、ご協力を賜りましたコスタ・リカ J O C V 事務所の皆様に心より感謝致します。

# 青年海外協力隊巡回指導ーボリヴィア



二本松隊員と柳川隊員による人形劇ーソリア保育園  
(右) (左)



国家社会開発連帯委員会コチャバンバ支所長との面談  
(右)





小麦粉粘土を指導する山本隊員ールイス・ピサロ保育園



編み物を指導する犬塚隊員ーマリアクリスティナ孤児院



三橋隊員の指導による鍋つかみと人形——バンバ地区婦人クラブ



山本隊員の指導で現地保母が作った折り紙——ビジャ・アバロア保育園

青年海外協力隊巡回指導－コスタ・リカ



青柳隊員の人形教室－地域職業教育学校（BARUVA）



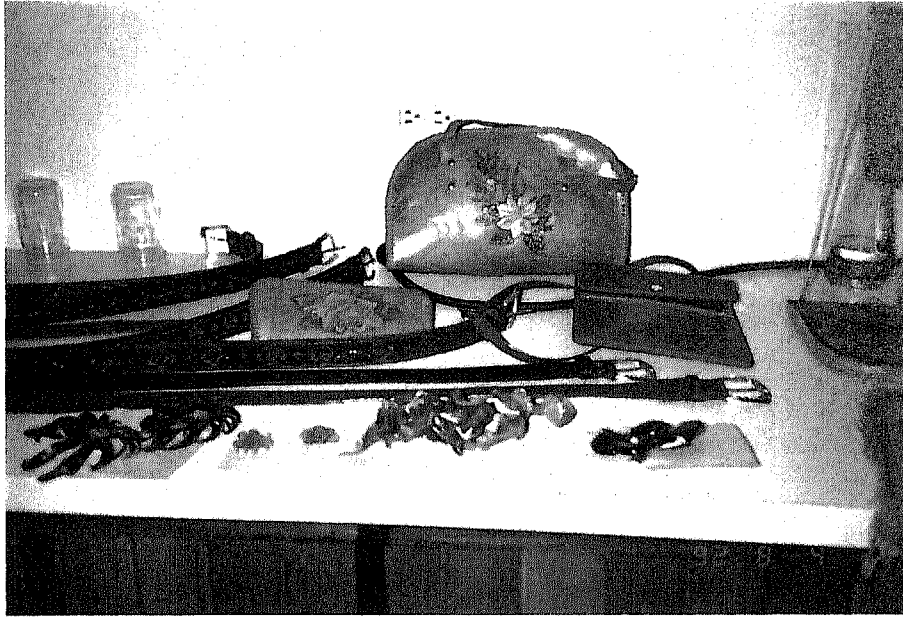
池水隊員のマクラメ製品－地域職業教育学校（CARIARI）



インストラクターに皮革縫製を指導する大津隊員－国立職業訓練庁



茅根隊員の活動現場－サリトレ村



大津隊員の見本用皮革作品—— 国立職業訓練所



茅野隊員の指導による髪飾り。市場で販売される予定

—— サリトレ村（インディオ居住区）

08787



J  
LIB